

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校 学校番号 8

I 自己評価

1 学校教育目標	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グロデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に多様な人々と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 心身の鍛磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成 基本的な生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組み、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導部			
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の評価は個々の生徒への対応やいじめについての対応について、昨年度に比べ約6ポイント上昇した。生徒指導部と担任で連携をとり家庭と密に連絡を取りながら対応した結果が認めただけだと感じる。今後も信頼していただけのような指導していきたい。しかし、ルールやマナー指導についての評価はやや下降しているため、家庭に協力を得ながら指導をしていきたい。 生徒の評価は、全体に保護者に比べ低い値となっている。根気よく指導を続け、互いに信頼感をもって学校生活を送れるようにしたい。 			
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる。 ◇自他の「生命」を尊重する態度や思いやりの心を育てる。 ◇基本的な生活習慣の確立を図る。 ◇安全で安心して生活できる学校をめざす。 			
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部内において、情報共有及び「報・連・相」を徹底した。 職員会議、学年別会議等において生徒情報を共有した。 スクールカウンセラーや外部機関と連携を図り生徒理解に努めた。 			
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
<ul style="list-style-type: none"> (1) 自己指導能力の育成 (2) 基本的な生活習慣・マナーの確立 (3) 「生命」を大切に作る心や態度の育成 (4) 積極的な教育相談姿勢の確立 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 達成感や存在感を味わい、自主性を育む支援 (2) 社会規範やモラル、マナーを遵守する意識 (3) いじめや暴力行為、差別に対する対応・指導 (4) 生徒との信頼関係の構築、生徒情報の共有 			
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価		
<ul style="list-style-type: none"> 学校生活のあらゆる場面において、身だしなみやモラル・マナー指導を粘り強く指導する。 常に時間に余裕を持った行動を意識させ、安易な遅刻を減らし、交通安全意識を高める。 心のアンケート等を活用し、生徒一人ひとりの心のサインを見逃さず、連携して対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生活習慣の確立に向けて全職員が連携して指導できたか。 ②遅刻の減少や交通事故件数の減少に結びついているか。 ③関係者との連携を密にし、個に応じた支援ができたか。 	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>		
12 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○担任等からの生徒情報の報告を迅速に行うことで、組織的な初期対応につなげることができ、個々の生徒に応じた支援を効果的に行うことができた。 ○生徒の様子を観察し、必要だと感じた時に全校集会や全校放送などを行って生徒に語り、自身を振り返らせる機会を設けたことについて一定の成果があった。 ▲一部、制服の正しい着こなしや身だしなみ意識、授業規律、情報モラル意識が定着せず、指導をしても改善が見られない生徒が見られた。 ▲昨年度に比べ欠席や遅刻者数が増加し、また、安易な早退も多く見られ、生徒の行動意識や学校への帰属意識が低下しているように感じられる。 		総合評価 A B C D	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを整え、清楚で品位と知性を兼ね備えた生徒を育成するとともに、校内ルールの遵守と授業規律を確立し、規律ある学校生活を送らせたい。 コロナ禍の影響もあり、他者との関わり方が下手な生徒が多く人間関係のトラブルを自分たちで解決することができず教員が入ってかえってこじれる事案が多い。学級活動やグループでの活動を通して他人と適切なコミュニケーションがとれる能力をつける支援を行っていききたい。 様々な講話や研修、ひびきあいの日等の人権教育を通じて、自己や他人を尊重する意識の定着、生命の尊さについての自覚を深める支援を図っていききたい。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶など生活のマナー、コミュニケーション能力など社会人としての基礎力について十分に養ってほしい。専門的な知識・技術だけでなく、社会に出てから対人関係で躓かないような生徒を育ててほしい。 友人関係のコミュニケーションだけでなく、社会人と交流し、大人の世界の中で考え、コミュニケーションをとることが大切である。異年齢の方々との交流をしてほしい。
--